

教育研究業績書

2018年05月14日

所属：心理・社会福祉学科

資格：助教（臨床）

氏名：三好 智子

研究分野	研究内容のキーワード
認知心理学, 行動科学, 認知科学	視覚情報処理, 発達性協調運動障害, 運動制御モデル
学位	最終学歴
修士（教育学）	九州大学大学院システム情報科学府情報学専攻 単位取得退学

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
1. レポート添削指導	2016年4月～現在	産業能率大学通信教育課程において、心理学レポートの添削を行うなかで、心理学の専門的知識のない学生に対しては、ポイントとなる点に補足コメントを入れ理解を深められるように工夫している。また、内容だけではなくレポートの書き方についても添削指導を行っている。
2. チャレンジシートの実施	2014年4月2015年2月	糸島市立深江小学校において、1日の学校生活の活動を複数個取り上げたシートを作成し、毎日児童自身がチャレンジする活動を設定し、その日の終わりに自己評価をする「がんばったすたんぷ」を1年生に実施した。これにより、児童の自主性や協調性の向上に繋がり、集団場面において学校生活に適応困難な児童の不応答問題を防ぐことに繋がった。
3. 双方向型授業の実施	2013年5月2015年2月	糸島市立深江小学校において、1年生音楽教育科目にて班別による演奏活動を取り入れた。音楽鑑賞活動では、体を使って音やリズムを表現する取り組みを実施した。1年生図画工作教育科目においても、班別による創作活動を実施した。鑑賞時間を得て創作物に対する感想、創作物のよい点や創作方法・創作過程などの発表・質問時間を取り入れた。
2 作成した教科書、教材		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1. 産業能率大学通信教育課程 兼任教員	2016年4月～現在	「チームワークの心理学」、「家族心理学」、「健康心理学」の3科目について、通信教育で学ぶ学生の課題レポート添削指導を行っている。
2. 福岡県糸島市立深江小学校 臨時講師	2015年2月2015年3月	学習支援教員（算数・理科専科）として、5年生クラスの理数授業の補助を行った。
3. 福岡県糸島市立深江小学校 臨時講師	2013年5月2015年2月	1年生クラスにて、音楽専科と図工専科として1年間指導した。また、Team Teachingの一員としてその他の授業補助や特別支援学級クラスの児童の補助を行った。
4. 九州大学大学院システム情報科学府 リサーチ・アシスタント	2010年7月2011年3月	九州大学大学院では、システム情報科学研究院認知科学研究室にてリサーチ・アシスタントとして、データの収集や整理等の研究補助を行うだけでなく、研究室に所属する学部生および大学院生の研究補助や研究進捗発表等のミーティングの運営を行った。
4 その他		
1. 配慮を要する学生の学生生活相談業務	2016年4月2016年8月	武庫川女子大学心理・社会福祉学科、心理・人間関係学科に属する配慮を必要とする学生に対して、教務助手として毎月、個別に面談を行い、体調状態や履修に関する相談を実施した。必要に応じて情報提供や各部署との調整を行った。

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
1. 中学校教諭専修免許状（理科）	2010年3月1日	
2. 小学校教諭専修免許状	2010年3月1日	
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1. 武庫川女子大学文学部心理・社会福祉学科 教務助手リーダー	2017年4月2018年3月	心理・社会福祉学科、心理・人間関係学科、文学研究科臨床心理学専攻において、公認心理師養成のカリキュラム整備等の教務事務を担当している。学科の教務助手7名のチームリーダーとして、学科全体の日常業務の進捗状況確認、問題の取りまとめを行い、学科長、幹事教授の指示を得る役割を担っている。平成29年度オープンキャンパスにおいては、心理領域のゼミ紹介や授業に関わるパネル展示を提案・作成し、学科の教育・研究活動の発信を行った。
2. ティーチング・アシスタント(TA)統括	2017年4月2018年3月	心理・社会福祉学科のTAを担当する臨床心理学専攻の院

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
3. 武庫川女子大学文学部心理・社会福祉学科 教務助手	2015年4月2017年3月	生の意見集約やTA会議の取りまとめなど、TAの業務のマネジメントを行っている 心理・社会福祉学科、心理・人間関係学科、文学研究科臨床心理学専攻において、心理領域の教務や予算事務を担当した。また、学科専用の学習支援室において、専門書の充実や学科発信用の案内掲示等を作成し学生の学習環境を整えた。
4 その他		

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
2 学位論文				
1. Advance visual cues の利用が打球の方向予測に及ぼす影響 ― 熟練者と非熟練者との比較実験による検討―	単	2010年3月	鳴門教育大学大学院学校教育研究科、修士学位論文	修士学位論文、主査 山崎 勝之教授 捕球場面において、内野手は打球方向の予測をしているの、もし予測しているのならどの時点で何を手がかりにしているのかを検討した。また、実験終了後に何に注目して課題を行っていたのかを質問紙で回答させた結果、熟練者は一連の流れから打球方向を判断していることが明らかとなった。また、熟練者は非熟練者よりも反応時間が短いということが明らかとなり、熟練者は非熟練者よりも早い時点でボールの左右方向を予測していることが示唆された。
3 学術論文				
1. スポーツ選手の予測の数理的解析 (査読付き)	共	2013年8月	心理学評論, 56, pp. 112-125.	三好智子, 森周司 スポーツ熟練者の知覚と行動の制御に関して、ボール運動の視覚情報の解析とボールの捕球位置や時間の推定、および対戦相手の身体動作の動作解析と対戦相手のその後の動作の予測について数理的アプローチによる研究を報告した。
2. スポーツ選手の知覚	共	2013年1月	VISION, 25, pp. 20-25.	森周司, 三好智子 スポーツ熟練者が有する専門的知覚の働きを発揮させることができるのは、競技場面あるいはそれに類似した実験場面、すなわち生態学的妥当場性が高い状況であることが明らかになっている。そのスポーツ熟練者の専門的知覚に関する研究動向を自身の研究も含めながら解説した。(解説論文)
3. 事前視覚情報の利用が打球方向予測に及ぼす影響 (査読付き)	共	2012年8月	心理学研究, 83, pp. 202-210.	三好智子, 森周司, 廣瀬信之 学位論文のもととなった内容を一部再検討し学術論文として投稿。遊撃手の打球方向の予測について反応時間課題と時間遮蔽課題を用いて検討した。その結果、打撃映像場面において熟練者は非熟練者よりも有意に反応が早かった。また、打者の踏み込み終了時点において熟練者の正答率は、チャンスレベルよりも有意に高かった。以上より、熟練者は非熟練者よりも打球方向予測の手がかりとなる情報を抽出し利用する能力が優れていることが示唆された。

その他				
1. 学会ゲストスピーカー				
2. 学会発表				
1. 口頭発表「幼児期における協調運動の発達特性」	共	2018年4月	第2回日本DCD学会学術集会, p. 21. (弘前大学)	長岡雅美・石川道子・三好智子 幼児を対象に発達性協調運動障害を評価する質問紙法のDCDQ-Jと実際の運動を評価するコーディネーション能力テストとの関連から幼児期における運動発達の特徴を検討した。そして、コーディネーション能力テストの課題別による発達段階の違いについて報告した。
2. 口頭発表「幼児期における微細運動の特徴」	単	2018年4月	第2回日本DCD学会学術集会, p. 20. (弘前大学)	三好智子 発達性協調運動障害の評価法であるDCDQ-Jのうち、書字・微細運動得点を3群に分け、群別による幼児(4歳児・5歳児)の円描画の特徴を検討した。そして、得点によって群分けした4歳児と5歳児それぞれの描画の正確性と回転数、筆圧の相関性について報告した。
3. ポスター発表「円描画における微細運動の分析(2)」	共	2017年9月	日本心理学会第81回大会論文集, pp. 834. (久留米大学)	松村憲一, 三好智子, 小笠原一生, 長岡雅美 微細運動の定量的な指標として、円描画の利用可能性を目的とし、タブレット端末を用いて円描画課題を実施し、利き手非利き手による幼児の円描画の特徴を検討した。そして、円の回転方向と描画の開始位置、利き手非利き手による円の逸脱数の違いにつ

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
4. ポスター発表 「円描画における 微細運動の分析(1)」	共	2017年9月	日本心理学会第81回 大会論文集, pp. 833. (久留米大学)	いて報告した。 <u>三好智子</u> , 松村憲一, 小笠原一生, 長岡雅美 微細運動の定量的な指標として, 円描画の利用可能性を目的とし, 幼児の円描画の特徴と保護者による 評定である発達性協調運動障害質問紙のうち微細運動 得点との関連を明らかにした。そして, タブレット 端末を用いた円描画課題と質問紙の得点によって 群分けした4歳児と5歳児それぞれの描画の逸脱率の 違いについて報告した。
5. ポスター発表 「Characteristic differences of a ball's direction when batting」	単	2016年7月	The 31st International Congress of Psychology, p. 1114. (Yokohama)	<u>Satoko Miyoshi</u> 野球場面において, 打者が遊撃手に向かって左右に 打ち分ける打撃動作の3次元データを基に, 主成分分 析を用いて左右の打撃動作の特徴モデルを抽出した 実験を行った。そして, 3つの打撃動作モデルが抽出 され, モデル別に左右方向の打球の違いについて報 告した。
6. ポスター発表 「捕球場面におけ る手がかりとなる情報-打球方向 の違いによる打撃動作の解析-」	単	2015年12月	日本レジャー・レクリ エーション学会第45回 学会大会論文集, pp. 11 8. (武庫川女子大学)	<u>三好智子</u> ポスター発表5の同様の実験場面で, 遊撃手から見た 打球方向の違いによる打撃動作を3次元動作解析に よって分析した。そして, 打球方向別の打撃動作を 時点ごと(つま先がついた時点, 踏み込んだ時点, インパクトの時点)に分け, 打撃動作の違いを報告 した。
7. ポスター発表 「打球方向の違い による打撃動作の特徴」	共	2011年9月	日本心理学会第75回 大会論文集, pp. 1272. (日本大学)	<u>三好智子</u> , 森周司 野球の守備場面において, 打撃方向を予測する際に 打者の打撃動作にどのような特性があるかを3次元 動作解析によって分析し, 一連の打撃動作の特徴を 報告した。
8. ポスター発表 「事前視覚情報の 利用が打球の方向予測に及ぼす影 響-熟練者と非熟練者の比較実 験による検討-」	共	2010年9月	日本心理学会第74回 大会論文集, pp. 761. (大 阪大学)	<u>三好智子</u> , 森周司 学位論文のもととなった内容のポスター発表。野球 の遊撃手が, 捕球の際に事前視覚情報を用いて打球 方向を予測することを明らかにするために, 熟練者 と非熟練者の反応の違いを反応時間課題と時間的遮 蔽法を用いた実験を報告した。
3. 総説				
4. 芸術(建築模型等含む)・スポーツ分野の業績				
5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
6. 研究費の取得状況				
学会及び社会における活動等				
年月日	事項			
1. 2018年2月	日本DCD学会会員			
2. 2015年10月	日本レクリエーション学会員			
3. 2010年4月	日本心理学会会員			